



愛隣幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・

園だより

・・・・・・・・・・・・・・・・ 10.10月号

やってみたい！ という気持ち

愛隣幼稚園の運動会も間近になってきました。このあたりでは秋の運動会は幼稚園がメインになってきています。(もっとも春に運動会をするなんて、幼稚園では考えにくいことです。年長ならまだしも、年少の春なんて・・・ね。)それでも、一般的には運動会は秋なのか、テレビや新聞で“より速く走るコツ”などという特集が組まれていたりします。「走り方」や「逆上がり」を指導する塾、家庭教師もあるそうです。うーん、これもお金を払って習うことになったのかぁ・・・何だか違うような・・・小さい頃からいっぱい歩いて、いっぱい走り回る、そんな経験があれば何もそこまでしなくてもと思ってしまいます。この頃の子どもたちは、足腰弱く、手足はしっかり動かず、そのためにすぐ転ぶ、走り出したらうまく制動できずに人にぶつかる、ということも書いてありました。それって1歳過ぎの歩き始めの子ども達の姿と同じです。ということは、それ以降、子どもたちの身体能力はほとんど発達していない?!ということでもあります。まあ、そこまでいなくても心配な感じはします。しかし子どもたちをよく見ていると、 やってみたい! という気持ちが溢れていることに気付かされます。特に2歳頃から4歳頃。歳の近いお兄ちゃんやお姉ちゃんのすることをじーっと見ています。目がキラキラしています。 やってやるぞ! という声が聞こえてきそうです。隙を見て挑戦します。鉄棒にぶらさがって、無謀にも回ってみたりします。やる気満々ですが、よくわかっていないので、回っている途中で手を離したりします。もちろん落下。泣いて助けを求めたりもしますが、 やってみたい! が勝っていればまた挑戦します。失敗するとか、出来ないとかそんなこと考えず、 やってみたい! という気持ちに後押しされて何にでも物怖じせずに挑戦できる、そんな時でもあるからです。高い所にも登ってみたい時です。高い所から飛び降りてみたい時です。ぶら下がってみたい。走りたい、走り回りたい。(リレーを待つ列にだって何回も何回も並んだりします。おにごっこだって走り続けてもへっちゃらです)保育所に勤めている友人からこんなことを聞きました。「1歳過ぎた頃、子どもってよく棚の中の物を全部手でかきだすようなことをするでしょ。片付けても片付けても、またかきだす。あれってね腕をそういう風に動かす機能が発達してきて、そういうことをしてみたくて仕方がなくなるんですって。だからしばらくその動きを存分にさせてあげるとやがてぱたっとやらなくなるのよ。ちょっと経つとまた同じ月齢になった子たちが同じことを始めるのよ。おもしろいわよ。」お母さんたちの「うちの子、ほーんと落ち着きなくて、困るわ。」「危なっかしいのよね。」という声をよく聞きます。でもそれは心配な落ち着きのなさでしょうか?もしかすると、運動機能や身体機能の発達に伴う健康な欲求から生まれてくる やってみたい! というムズムズ感が溢れ出しているのかもしれない。そんな時はチャンスです。伸びる時です。全てにお付き合いはできませんが、出来るだけさせてあげたいと思います。危険も伴いますが「危ない」と端から禁止してしまうのは考えものです。大人に出来ることは、安全に配慮することと、少々危なっかしくても黙って見守ることぐらいです。やってみなきゃわからない、失敗も大事な経験です。このやり方は危ない、これなら大丈夫、うまくいった!!自分で出来たことが自信になり、達成感につながります。繰り返し繰り返しやることで、筋力も増して強く丈夫な体になります。自分で自分の体をコントロールできるようになります。近頃は“危ないから してはいけません”という禁止事項ばかりが目立つ遊び場が多くなりました。砂場だって人気があるのは、滅菌されたまっ白いサラサラの砂が用意された室内遊戯施設の砂場だとか・・・転ばぬ先の杖が多すぎます。これでは体力も危険回避能力も抵抗力も免疫力もどこでつけたらいいのかと。第一、ワクワク感がない。子どもたちには実に気の毒な時代です。